うどん打ち体験 参加者の声

初めて嵐山町にきて、初めてうどんを打ちました。 小麦粉と塩と水だけでできて、簡単な上においしかっ たです。

講師の安藤さんも、 嵐山町のことを教えて くださり、町への愛情 を感じました。

また、収穫体験や田 植えなど、友人を誘っ て嵐山町に行きたいと 思います。



入間市在住 主婦36歳

Facebook 始めました

神岡さんの活動は、本広報紙に「町おこしディレ クターだより」として隔月で掲載しています。 Facebook 0

また、Facebook にもページを開設し ています。イベント 情報等はこちらでも お知らせします。 「嵐川町マチおこし ディレクター」で検 索してください。 「いいね!」 やフォ ローをぜひお願いし ます。また、活動に ご興味のある方は、 ご連絡ください。



地域の活性化のまちづくりは一朝一夕で達成できる ものではありません。地域にいる個人や、団体、企業 が協力し、強く結びついた活動が、地域力の向上につ ながり、活力のある町おこしにつながっていきます。

町おこしディレクターの神岡さんの活動が起こす新 しい小さな風が、様々な人や企業を包み込みながら、 一つの方向に向かう大きな風となり、嵐山町の活性化 が前進していくことを期待しています。

活動に共感し、一緒に活動していただける方がいま したら、お力添えください。

問合せ 地域支援課 政策創生担当

2 6 2 - 2 1 5 2

のイメージ 神岡の

本当の嵐山人 増加していく



この中の人を増やしていきたい。

今後の展望

現在は、昔ながらの古民家を改修し、移 住・定住・交流のための拠点整備を進める ための活動を行っています。

その拠点を中心に、嵐山町の農家の生活 様式を「等身大ツーリズム」として、来訪 者に体験してもらうことを計画中です。嵐 山町を広く知ってもらうため、田園風景や 空き家の未利用空間を活用したロケ誘致や、 SNSを活用した情報発信も検討中です。

それらの活動を進めることで、持続可能 な地域の活性化を行っていくことができる と考えています。



神岡さんからのメッセージ

皆さまの日常が観光になりうるということ

早いもので、活動から一年が経過をしました。嵐山 町のことや、地域の捉え方などが分かってきました。 皆さまの日常が観光になりうるということです。皆さ んはこう感じているかもしれません。「嵐山町の暮ら しと観光が結びつかない」と。それは当たり前です。 観光とは、「自分たちにとっての当たり前の暮らし」 を「非日常にほかの人が楽しむこと」だからです。僕 は、嵐山町で観光をしています。川で遊んだり、農家 体験をしたりしています。

嵐山町の可能性を再度掘り下げる機会をください

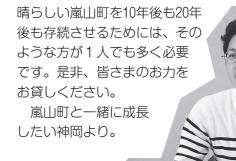
周辺地域との連携として、荒廃している林業や山を どのように管理し、事業として、収入にしていける か、本当に悩んでいます。今年は、山主さんに承諾を 得て、木材を貨幣に変えてみようと思ってます。いき なりですが、使ってない軽トラなど余っている方や、 貸してくれる方などはいませんか。お力をお貸しくだ さい。嵐山町の可能性を再度掘り下げる機会をくださ

い。

テレビの「ロケ地」登録なども、少しずつですが始め ております。個人宅から民間企業の受付など、ありとあ らゆる空間を有効活用できないかと感じます。

素晴らしい嵐山町を10年後も20年後も存続させるために

私は、嵐山町に住まう人が、嵐山町に愛着や好感、ま ずは興味関心をもってもらうために活動しています。そ して、目的を達成するための手段で事業性を見出す。素



「合同会社がっちゃんこ」を設立しました

...........

合同会社 (以前の有限会社)を設立しました。

会社名「がっちゃんこ」の意味

~連結・関係を果たす、果たした時の擬音を イメージしました~

公共機関や民間企業は、それぞれが目的をもって 事業や行動を実施しています。しかし、連携がとれ ず「点」の状態のものが多いのも事実です。例え ば、河川浄化と森林整備は別の担当が行っています が、重なり合ってその成果が何倍にもなります。

「がっちゃんこ」は、縦割だった事業やシステムを 横断的に連結・関係を果たす、果たした時の擬音を イメージしたものです。

ています。

起業をしたワケ

~嵐山町や嵐山町に住まう人との挑戦~

嵐山町で何ができて、どのような環境で生活がで きるのかを、ドラマチックに神岡が体現できれば、 追従する人が現れてくれると考えています。

嵐山町で何ができるのか、今でも正直わかりませ ん。私も家族がおりますし、とても不安です。

移住定住を今後も発信していくだけでは、すごく 無責任だと考えています。そのためにも、嵐山町や 嵐山町に住まう人との挑戦をしてみたいのです。

受け入れる嵐山町民の不安な気持ちもあるでしょ う。でも、次の世代のために、「確かな」嵐山町をつ 嵐山町の隣組や横のつながりの強さもイメージしなげていくためには、必要なことだと思うのです。

> もちろん、嵐山町の仲間入りをしたかったという のも理由の一つです。

なお、ロゴも3種類作ってみました!お好みがあ ればお教えください。









広報嵐山 2018.3 広報嵐山 2018.3